

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372800997		
法人名	農協法人		
事業所名	グループホーム やまびこ		
所在地	熊本県上益城郡山都町下馬尾288-5		
自己評価作成日	平成23年11月21日	評価結果市町村報告日	平成24年1月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市上通町3-15 ステラ上通ビル4F
訪問調査日	平成23年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方がたの「想い」に気づき、残された力を発揮できる「場」の提供を心がけています。利用者の方がたとスタッフがお互いに助け合ったり、支えあったりして楽しく暮らしています。笑顔と笑い声が絶えず、安心して暮らすことのできる楽しい”我が家”です。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは法人本体の農協に隣接した場所に位置し、車の出入りや人々の往来も身近にわかる生活感あふれる良好な施設である。木製のテラスは日当たりがよく、日光浴や乾燥野菜作りに絶好の場である。リビングには嚙下体操や5分間体操のフローを掲示し、健康面の配慮が伺える。日中は各自で歌や御経を披露し合い、笑いや手拍子が絶えず響いており、ホーム全体の関係性の良さがうかがえた。創設時の熱意や思入れの姿勢が十分に伝わるホームである。その思いを継続していくためには、理念と人材が最も大事であることを、法人役員・管理者・職員の共通認識を更に構築されることを期待したい。地域の高齢者ケアの中核を担うことを望みます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人の持っている力が発揮できるようにまた、落ち着いたゆとりある生活が送れて安心して暮らしていけるように支援している。	理念は常時確認出来るよう玄関とリビングに掲示している。法人本体農協の福祉事業部の理念を職員は、共有し実践している。	今後は、福祉事業部の中でも地域密着性を具体的に盛り込み、より地域の人々にグループホームが受け入れられ、認知症のケアの啓発の要になることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩やお買い物に出かけ馴染みの方々と触れ合う機会を意識的に作っている。地区の方々からは日常的に交流し「心がけ」てもらっている。	夏祭り等の地元行事には積極的に参加しており、地域との交流は深く、清掃作業にも職員が参加しているため、周囲からの認知度も高く、日常的な交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月定期的に行われている認知症家族の会に出席、家族の思いなど傾聴し支援方法などの提案など行っている。また、中学生の職場体験などの受け入れも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではその間に行った行事やその時の状況・日々の暮らしぶりの報告を行っている。委員さんからは、町内の情報を教えていただいたりしている。	会議を2ヶ月に1回実施しており、家族1人・入居者1人は輪番制で必ず会議に出席してもらい、要望や意見を出してもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月行われている地域包括ケア会議に参加して情報の共有を図っている	行政主催の地域包括ケア会議に職員が出席している。そこでは、山都町のグループホームの関係者が参加しているのでホームの現状等について情報交換・共有化を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束は行っていない。ケア時の声かけに対しても「振り返り」は行っている。	事業所内では、定期的に勉強会を開催している。また月1回程度は、外部研修に参加して、報告書を作成し職員間の共有が図られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や施設内の勉強会は行っている。声かけなどで、相当しないかは等は、常に話題にしている。		

グループホーム やまびこ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修への参加は行っているが、関係者と話しあったり、活用できるように話し合ったりする必要性は現在のところはない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、疑問点についてはその都度お尋ねしていただけるよう声かけしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とは訪問時に状況の説明を行ない、ケアについて話あったり、行事について話あったりしている。	年に2回、4月と9月に家族会を開催している。その時に日々の暮らしぶり等の現状報告や屋外活動の報告等をホーム担当者が行っている。入居者も家族も自己紹介をし、楽しく有意義な場となっており、要望や意見が出やすい雰囲気づくりをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要時は代表者や管理者と職員による意見交換会を行っている	随時、管理者・職員、福祉部部長を交えてミーティングを行っているが、振り返りの記録が不十分である。	質の高いケアを継続維持していくためには、日常のケアの実践とともに職員の共有の課題を整理し記録に残し、運営に反映できるような仕組み作りを望みます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員が向上心を持って働く事の出来るように労働条件や環境の整備には働きかけをおこなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修参加を行っている。 職員一人一人目的に会った研修参加が出来るように勤務配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会に参加。その中で研修会や交流会を持ちサービスの質の向上を目指している。 町内のグループホームとは常に情報の交換を行っている。		

自己 自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用開始前に御本人・御家族と面談し、思いや不安感の除去に努め安心して暮らせる環境作りや関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とは何でも話し合える、安心して預けられる関係作りに努め家族としての思いや事業所としての対応法などお話ししている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来る限り柔軟な対応を心がけている。 場合によってはケアマネージャや他の事業所のサービス利用も視野に入れた取組をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いが同じ屋根の下で暮らしているという思いを持って、和やかで落ち着いた生活ができるように声かけや場面作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に、御本人を支えていく事は強くお願いしている。 家族との関係が途切れないように受診や行事参加は極力お願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室の利用やお店を利用することによって、そこでまた馴染みの方との触れ合いが出来るように外出など工夫している	以前からの関係作りが途絶えないような支援を心がけている。地域の商店街への買い物や病院受診なども、行きつけの道を職員と一緒に歩いて行くことが多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が上手くいくように、テーブル席の配置やソファに座る位置、活動時の位置など雰囲気を考え対応している。		

グループホーム やまびこ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も様子を見に行ったり、逆に家族の訪問を受けたりしてこれまでの関りを大切に継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中での言葉や態度から把握している。	日常の暮らしの中での会話や仕草のなかで思いや希望を把握するようにしている。さらに入居者の状態の変化を見逃さないように定期受診の支援も行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴は、ご本人やご家族から収集し、サービス利用があればケアマネージャからの情報提供も頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者一人ひとりの生活リズムを理解すると共に出番づくりに心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題は訪問時にご家族に相談し、かかわり方などを説明して介護計画を作成している。	管理者と職員は常に情報を共有しているので、モニタリング・記録・プランニング等は管理者(介護支援専門員)が主になって行っている。計画作成後は、管理者から説明があり、職員全員が共有出来るようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践や結果・気づきなどを記録として残し、介護計画に反映できるように個人記録の見直しを行った		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対しては、柔軟な対応が出来るように心がけている		

グループホーム やまびこ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	関連施設が行なっている季節の野菜の収穫への参加を行ったり、町内の温泉に出かけたりして楽しく、暮らせるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は継続。町内の病院は施設より支援。遠方の場合でご家族の支援が困難な場合はスタッフ支援も行っている。また、ご家族との同行もある。	従来からのかかりつけ医に受診出来るように支援している。受診同行も職員だけでなく家族にお願いすることもある。現在のところ定期受診のみの方が大半である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や表情の変化を見逃さないように、早期発見に努めている。異常時の連絡報告体制は出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はご本人に対しての日頃のかかわり方や状況などを含め情報提供している。入院によるダメージの軽減に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の時点で重度化になった場合の説明はさせていただいている。ホームで出来ることや方針の説明も行い、必要時には関係者で話しあうようにしている。	重度化の場合は入居時に指針として入居者・家族に説明している。状態変化が見られる場合はリスクマネジメントのマニュアルに沿って、家族やかかりつけ医等と話し合いホームで出来ることを理解してもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当やAEDの操作など消防署の協力を得て定期的に訓練を行なっている。また、施設内研修も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行なっている。地域の協力は運営推進会議のメンバーの方々に協力得ている。消防団への協力依頼も検討しているところである。	ホームの職員と入居者が一緒に夜間を想定して、年2回実施している。近隣の状況も常に念頭に置いて行うようにしている。	今後は想定外の災害に対しても少しずつ知識を得て、地域との協力体制を築かれることを期待します。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	さりげない言葉かけのなかにも、相手が「嫌だな」と思われないように心している	プライドやプライバシーを傷つけない言葉かけに配慮し、一人ひとりを尊重した対応に努めている。個人情報や書類に関しても十分な配慮がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活のなかでの会話から汲み取るようにしているし、できるだけその時に思い添えるように取り組んでいる		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れに沿った中で、出来る人が出来ることをして過ごしている。出来ない人への取組が希薄になってしまっている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の馴染みの理美容室を利用している。 ご本人のこだわりのスタイルがあるので、その人の好みに任せている。但し、衣類の清潔については支援させてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者は同じ物を同じテーブルで食べながら摂取状況の把握に努めている。また、片付けは食べた後のお茶碗をお盆に載せてもらうようにしている。	入居者と職員が同テーブルで食事をを行い、言葉のキャッチボールをしながら楽しく食事できるように努めている。食後は、食器の片付けやテーブル拭きなどの役割支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配色サービス利用中。管理栄養士が献立している。汁やスープは作っている。食事は個々の状況に沿って提供している。お好きな物、食べやすいように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯ブラシのセッティングを行い磨いてもらっている。出来ない方は支援している。食後のケアは定着している		

グループホーム やまびこ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基に、誘導している。トイレでの排泄を大切にしている。パンツ、パットはご本人に合わせて使用している。	一人ひとりの状態にあった支援でトイレでの排泄をできるだけ支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し、便秘時には牛乳やヨーグルト、ヤクルトによる腸管の活性に努めている。毎日の体操で腹部マッサージを取り入れたり散歩など腸の動きをよくするように努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には一日ごとの入浴を行っているが、その日の体調や希望を確認して行っている。拒否ある場合は、タイミングや声かけの工夫を行っている。	出来るだけ希望に添った入浴を支援している。体調や拒否等があった場合は職員で工夫して清潔な生活が保てるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活ペースで過ごしていただいている。安眠が得られるように、静かな環境に配慮している。眠剤服用の方には一定の時間に服用して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の説明書は必ず個別の薬袋に入っており、処方中の薬が誰にでも分るようにしている。薬は必ず手渡しをして、飲まれたあとも空の分包紙の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残された力が発揮できるように得意分野で、お願いの声かけをして、最後は必ずお礼の言葉かけを行っている。負担感のないように配慮している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に2回は外出支援ができるように勤務体制をとっている。外出する利用者が決まってしまうことで車椅子の方の支援が少なくなっている。地域の方の支援の申し出も実現できていない。当日の希望外出は十分な支援はできていない	商店が近くにあるため散歩がてらに外出するようにしている。普段行けない場所に外出出来るように日時を決めて、職員体制を充実している。車いすの利用者が多くなったため以前のように気軽に外出出来ない方もいる。	運営推進会議で話題にあげて、地域や家族のあり方等について更に検討されることを望みます。

グループホーム やまびこ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお金を預かり、事業所が管理している。外出時のお買い物や病院受診時は、支払いが出来る方についてはスタッフ見守りの中でご自分で払ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中お見舞いはそれぞれの家族に出して頂いている。利用者からの希望があれば電話してお話できるように取りくんでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物や、季節の花を植えたりして心穏やかに生活できるように配慮している。さまざまな音は生活の音として捉える事ができているため、不快にはつながっていないと思う	南向きの共有空間は、日当たりがよく室内からは車の出入りや、近隣で働く人々の行き交う様子を身近に感じることが出来るため、季節や生活感がホームに伝わっている。室内も掃除が行き届いており、玄関の熱帯魚や観葉植物も入居者の生活の質を高めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル、イスの配置に工夫して、落ち着いてくつろげるスペースづくりに配慮している。 皆さん、フロアーで過ごされることが出来る		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご家族や利用者の思い思いでレイアウトされている。写真や馴染みのものを置いてこちよく過ごせるように工夫している。	部屋のレイアウトは入居者の好みで異なり、洋風調から和風まで様々あり、ベッドの向きも利用者の好みを尊重して配置している。壁にはそれぞれのお気に入りの掲示物があり、快適な環境作りを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人お一人の「出来る」力を見極め、安全で自立した暮らしが出来るように支援している		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	1	地域との関係が希薄になってきているように思われるため地域の一員としてのグループホームのあり方の検討が必要である。	理念に地域密着性が具体的に折りこまれていないので、理念の見直しを行い地域の一員としてのグループホームの確立を図る	①理念の見直し ②運営推進会議で話題にあげ、地域とのかかわり方を検討する。	3ヶ月
2	11	カンファレンスの記録が不十分のため課題の整理・情報の共有のためにも記録の整備が必要である	記録の充実を図り、情報が共有される事でケアに反映でき質の向上につながる事が出来る	①記録様式の作成 ②個人記録のアセスメントを取り上げる ③カンファレンスは随時行い記録に残す	1ヶ月
3	35	協力を得られているのは、推進委員の方々に限られている状況であるので、他の地域の方との協力体制も必要と思われる	地元の消防団との連携や地域住民の方々とも連携を図る	①訓練時の声かけ ②運営推進会議においての情報収集	6ヶ月
4	49	外出支援が、歩ける方に限られている状況であり車椅子の方の支援が不十分である	家族やボランティアの協力で、外出希望の対応がスムーズに出来る	①外出の希望があったら家族に相談 ②協力ボランティアへの呼びかけ ③日中の職員の増員	2ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。